



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

その日の札幌は、最高気温が氷点下4度で今年初の真冬日。24時間積雪量は55センチと、1999年の統計開始以来、1位の値を更新しました。真っ白な雪世界に誘われるようにして、彼女は旅立ってしまいました。

12月18日、女優で歌手の神田沙也加さんが、札幌市内のホテルで転落死の報。享年35。警察は事故死と自殺と両方の可能性から捜査を進めているとのこと。死の数時間前には、父親である神田正輝さん(71)にお誕生日を祝う電話をしていたといっています。

主演を務めていたミュージカル『マイ・フェア・レディ』の公演中の出来事。来年で降も仕事はびっしり詰まっていたとのこと。仕事に脂がのって人生が一番充実しているであろうこの時期に、一体なぜ? 一体何が? と誰もが悲しみ、驚いたはず。そんな

236 女優・歌手 神田沙也加



残した映像に静かな気持ちで向き合う

中、12月20日放送の『バイキングMORE』(フジテレビ系)で、

神田さんの報道が一通り終わった後、司会の坂上忍さん(54)が「理由を探すことに、意味があるのかな…」とぼそっと呟られました。僕も同じように思いました。確かに、明確な理由があつて遺

書を書き、準備万端にこの世から旅立たれる人も多くみてきました。しかし、強い希死念慮がないまま、とても小さな出来事がきっかけで、ふわりと違う世界に引越すするように、ある日突然、旅立ってしまう人も同じくらいいるように思います。

理由を探るよりも…

人間は元々、不条理な生き物です。すべての行動に誰もが納得するような因果関係が存在しているわけではないかもしれません。その理由

は、本人にさえわからないのかもかもしれませんし、もしかしたら「死にたい」とさえ思っていないかたかもかもしれません。だから死を悼むのであれば、理由を探るよりも故人の遺していったものに静かな気持ちで向き合うことのほうが旅立った者も残された者も救われるはず。

神田さんは、35歳という若さながら、素晴らしい歌やお芝居をたくさん映像として残してくれました。私たちはこれからいつでも、神田さんの天使のような歌声を聴き、花のような笑顔に出会うことができるのです。

遺されたご両親は本当にお辛いと思います。身をちぎられる想いでいるでしょう。しかし、他人がその家族を責めることなど言語道断です。素晴らしい才能を受け継ぎたゆまぬ努力で日本屈指のミュージカルスターとなったお嬢さんを生涯誇りに思つて、再び会えるその日まで人生を全うしてほしい。僕は来年、聖子さんのコンサートに伺えるのを楽しみにしています。